

研究課題名	維持血液透析患者における栄養指標：Geriatric Nutritional Risk Index (GNRI)と骨折発生との関連
研究責任者名	広島大学 腎臓内科 教授 正木 崇生
研究期間	2020年8月6日(倫理委員会承認後)～ 2023年3月31日
対象者	2011年12月1日～2012年11月30日の間に、広島大学およびその関連施設の腎臓内科にて、多施設共同研究“血液維持透析患者における脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体 N 端フラグメント (NT-proBNP) の有用性に関する多施設共同研究”(第 E 疫-480 号)において、診療録情報の収集に同意された患者さんのうち、週3回外来通院透析による治療を受けられた患者さんを対象とします。
意義・目的	<p>透析患者さんは、一般人口と比較して骨折の発生率が高いことが知られています。また、透析患者さんの低栄養は、生命予後の悪化や合併症の発生と関連していることが知られており、透析患者の低栄養の発見が重要です。低栄養を早い段階から見つけるために、複数の指標を組み合わせるスコアリングモデルが頻用されています。頻用されているモデルのひとつに、Geriatricnutritionalriskindex(GNRI)があります。</p> <p>これまで骨折発生と、低 Alb や低 BMI との関連についていくつかの報告があるものの、これらのスコアリングモデルを用いて低栄養の指標と骨折発生の関連性を検討した研究は認めません。今回、“血液維持透析患者における脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体 N 端フラグメント (NT-proBNP) の有用性に関する多施設共同研究”に匿名化され登録された週3回の外来で維持血液透析を受けている患者さんを対象に、事後分析を行い、低栄養と骨折発生の関連性について調査します。</p>
方法	<p>本研究は、第 E 疫-480 号で収集した診療録(カルテ)情報を調査して行います。カルテから使用する内容は身長、体重、性別、既往歴、血液検査、普段内服している薬剤、入院や死亡の有無などです。これらの情報広島大学の研究者が解析します。(個人を特定可能な情報は使用しません)</p>
第 E 疫-480 号における共同研究機関	尾道クリニック、中央内科クリニック、博愛クリニック、クレア焼山クリニック、広島ベイクリニック、小田内科クリニック、県立広島病院、イーストクリニック、横川クリニック、井口医院、一陽会クリニック、原田病院
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科 腎臓内科学 教授 正木 崇生
個人情報保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。本研究で使用するデータは、既に匿名化されており、個人を識別できる情報は含まれておりませんので、情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p>

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-1506

広島大学大学院医系科学研究科 腎臓内科学

教授 氏名 正木崇生 (研究責任者)

広島大学大学院医系科学研究科 腎臓内科学

大学院生 吉田マリア (担当者)

研究機関：広島大学